

内閣総理大臣賞

みーみーのゆう便屋さん

香川県 豊原小学校 五年
春田 凛々花

私は、5才のときに病気にかかり、入院していました。ずっと点てきがつながっていて自由に動けなかったり、薬のせいで食欲がなくなったり、気分が悪くなったりと、入院生活はとてもつらいことだらけでした。

そんなとき、私を元気にしてくれた人がいます。その人は、同じ病棟に入院していた年下の男の子「こうちゃん」のお母さん、「みーみー」です。

みーみーは、自由に動けないベッドの中でも遊べるようにと、かさ袋で風船を作ってくれました。食欲がないときは、食べやすいおかしをくれました。空き箱や割りばしで、工作を教えてくれることもありました。みーみーは元保育士さんで、いろいろな楽しいことを知っていて、周りの子どもたちのヒーローでした。

なかでも心に残っているのは、病棟内の「ゆう便ごっこ」です。手作りのポストを病室の入り口に置いて、手紙やおかしの交かんをします。『おすすめです。見終わったら〇号室まで』というメッセージ付きのDVDが届くこともありました。何が届いているかなあと、私はわくわくしながら、一日に何回ものぞきに行きました。

私にとって、みーみーからの手紙は特別でした。

『今夜、病院内の散歩に行きましょう。こうちゃんとむかえに行きます』

みーみーから手紙がくると、私はすごくうれしくて、すぐに返事を出しました。初めて行う治りょうの前の日にも、

『うちのこうちゃんが、泣かないでできたんだから大丈夫。終わったらまた散歩しよう』

と、はげましの手紙が届きました。年下のこうちゃんができた治りょうなのに、お姉さんの私が泣いたらはずかしいと思い、勇気をふりしぼって治りょうに行くことができました。

実際、痛くも怖くもなく、へっちゃらでした。みーみーの手紙がなかったら、私は怖くて泣いていたと思います。みーみーのゆう便ごっこは、手紙やおかしだけではなく、元気や勇気を運んでくれました。

数カ月がたち、こうちゃんの転院が決まり、病院に残る私とお別れすることになりました。そして、私は本当のゆう便屋さんで手紙を出すことを約束し、連絡先を交かんしました。

3年後、私はまた入院することになりました。すごくショックで、みーみーに手紙を出しました。すると、すぐにみーみーから一つの大きな箱が届きました。中には、星の形の千羽づる、たくさんのおかし、笑顔のみーみーの似顔絵と『がんばれ!』の手紙が入っていました。

みーみーがいつも応えんしてくれている、天国のこうちゃんにはずかしい姿を見せたくないという思いでいっぱいになりました。そして、もう一回がんばろうという強い気持ちになれました。

みーみーの小さな親切は私の宝物です。私は、みーみーのように親切を配るゆう便屋さんになりたいです。